

コラム

地域別構想の地域区分について～隣接地域との連携～

地域別構想の14地域区分の考え方

14地域の区分は、都市計画としての区分（都市計画区域内・外、市街化区域内・外）だけでなく、実際の土地利用状況や35地区を中心とした日常生活の範囲、合併の経緯などを考慮して設定しています。

最初のマスタープランである松本市都市計画基本方針（H11.5策定）や旧計画（H22.3策定、H25.3改定）においても、このような考え方で地域を区分し、住民の皆様と意見交換をしながら、各地域の将来像やまちづくりの方針を定めてきました。

一方で、より効果的な施策としていくためには、本計画上の14地域内にこだわることなく、複数地域にまたがる取組みを進めていくことにも配慮する必要があります。

隣接地域との連携について

●東山北部地域と東山中部地域（温泉街から美ヶ原高原まで一体的な活性化）

東山地域には、松本の奥座敷と呼ばれる浅間温泉や奈良時代から松本城主の庇護を受けてきた美ヶ原温泉などの歴史ある温泉街や、松本文化会館、松本市野球場、かりがねサッカー場をはじめとする文化・スポーツ施設など多くの観光資源や観光施設があります。これらの施設がより一層の魅力向上と機能向上を進めていくためには、周辺施設との連携により、更なる一体的な取組みを進めていく必要があります。

このことを踏まえ、浅間温泉・美ヶ原温泉及び周辺のスポーツ施設一帯を、健康・スポーツ地区として位置付け、温泉施設と連携した健康づくりのための空間形成を進めることとしました。また、美ヶ原高原と市街地とのアクセス性の向上による冬季利用や自転車利用など、市街地から高原への近接性を活かした一体的なプロモーションを進めていくことを見据え、両地域の地域別構想を策定しています。

●安曇地域と奈川地域（西部山岳地域としての連携）

平成17年に合併した安曇地域と奈川地域は、本計画では別地域として地域別構想を定めています。安曇地域では、上高地・乗鞍高原・白骨温泉など日本を代表する国立公園、また世界に誇れる観光地としての取組みを進めていること、奈川地域では山々に囲まれた深谷地で歴史的街道沿いの集落として生活・風土や伝統・文化とともに地域資源が培われてきたことを踏まえ、それぞれ将来像とまちづくりの方針を定めました。

一方で、両地域に共通する課題もあります。観光客の減少、人口減少・少子高齢化、就労の場の確保、幹線道路の整備促進などは両地域に共通する課題であり、西部山岳地域として一体的な取組みが必要となっています。今後は、それぞれの特性を活かしつつ、相互の連携を図ることが更なる地域づくりに繋がること^{つな}から、両地域の地域別構想では連携という言葉を用いました。両地域が一体的な山岳リゾート（アルプスリゾート）として連携し、自然環境資源の利用と保全の好循環が生まれるように行政と住民と関係団体による協働の取組みが求められています。

このように、各地域の特性にあわせた記載をしつつ、隣接地域間の整合性や一体性に配慮した総合的な取組みを見据えながら地域別構想を定めています。